



2018年12月3日

栃木市長 大川 秀子様

株式会社 栃木ウーヴァ
代表取締役社長 大栗 崇司

栃木ウーヴァフットボールクラブに対する支援の要望書

時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。また、平素から格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2018 シーズンを終えて目標であった JFL 昇格については達成することができず、皆様から頂いた御支援ご協力に応えることが出来ませんでした。

今後も地域に密着し、地域を代表するクラブとして信頼して頂けるチームとなり、厳しいリーグを戦い抜くため、選手、チームスタッフ、クラブスタッフも一丸となり活動するとともに、近い将来の J リーグ参入を目指し、更なる努力を行ってまいります。

つきましては、ホームタウンである栃木市には様々な点で、今以上のご支援、ご協力を頂かなければならない状況となっております。

今後も、サッカーを通じて多くの栃木市民、県南地域の方々や県民の活性化のために活動するとともに、栃木市の名を全国に知れ渡るような貢献をしてまいりますので、下記の7項目につきましてご支援を賜りたく要望します。

記

1. 栃木市内にサッカー専用スタジアムを整備し、弊クラブのホームスタジアムとするとともに、地域に開かれたスタジアムとして活用を図りたい。
2. サッカー専用スタジアム整備に合わせ、その隣接地に天然芝のフルピッチ練習場を整備したい。
3. クラブの選手及びスタッフ等については、活動の利便性を確保し、地域に密着した活動を行うため、近隣に住環境を用意する必要があり、出来るだけ練習場に近い場所に寮等を整備したい。
4. サッカー専用スタジアム利用者に対し、食を提供する場は必要と考えるため、レストラン等の飲食モールを設置したい。
5. スタジアムや飲食モールの整備・運営について、基本的に民間資金で行う方針であるが、地域のチームとして積極的に活動することとなるため、各種制度を活用した助成金や補助金を含めた財政支援をお願いしたい。
6. サッカー専用スタジアム運営には多くの人材が必要となるため、地元人材の活用を図るとともに、地元施設を活用して、専門学校開設等を含めた人材育成を行いたい。
7. 地域に密着したクラブとして J リーグ参入を目指すに当たり、地元自治体である栃木市との緊密な連携は必須条件となるため、当クラブへの派遣対応を含めた人的、組織的な支援をお願いしたい。

以上